

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370102877		
法人名	第2まこと会		
事業所名	グループホームまほろば		
所在地	岡山県岡山市東区中尾1036		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JivvosyoCd=3370102877-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JivvosyoCd=3370102877-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年12月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コミュニケーションをとり寄り添うケアを提供し、笑顔で安心した生活が送れるよう、介護計画に沿った支援をしています。「共に生活する」という視点に立ち、利用者自身の存在感や役割を大切にしています。調理室と連携を取りながら、有機農法で作られた旬の野菜を使い、食生活の充実を図っています。食事作りのボランティアの受け入れや、夏祭り、敬老会、振興祭り、又御利用者の要望に沿った外出支援等、外出する機会を多くうけ、地域との交流を図り社会との関わりを維持しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は草木に囲まれ、紅葉や山茶花などの花を楽しむ環境にある。入居者は散歩や居室から眺める里山の季節を感じ取りながら静かで落ち着いた暮らしをしている。今年度は、地域の夏祭りや敬老会、振興祭り、運動会等、行事に積極的に参加し、交流を楽しんだ。職員は年2回、勉強会にて身体拘束適正化検討を行い、「本人の自由を奪うこと、行動の制限をすることは全て身体拘束であり、グレーゾーンの考え方を検討し、本人の尊厳を傷つけない。判断に迷うときは自分に当てはめて考える」等を検討し、実践に繋げている。職員の介護に対する見識は高く、統一したケアを目標に職員同志のチームワークを大切にし、ケアに繋がるよう努めている。入居者が入れ替わったことで活気が出て、和気とあいあいと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべての人のための至上の楽園」という母体法人の理念を理解共有し、入居者が安心して暮らせる事を心がけている	「楽園」のような環境の中にて「入居者を始め、ここに住む人すべてが、安楽に安心して生活できる」事を目標に理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、敬老会、振興祭り、年2回「元気の出る会」に参加、月1回 食事作りのボランティアの受け入れ等地域との交流を図っている	ホームの夏祭りや「元気の出る会」などの行事に参加し、地域の方と共に楽しんでいる。食事作り、マンドリン演奏などのボランティアが訪れてくれる。上道公民館の文化祭に参加し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体的拘束適正化の検討、困難事例等、出席者からの意見をもらいサービス向上に生かしている	行政の参加があり事業所からは状況報告、園遊会や夏祭りなどの行事報告をして理解を図っている。身体拘束適正化委員に対し、入居者に尊厳あるケアが行われているか、不適切な言葉、ケア、環境等を説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの方、上道公民館館長には、運営推進会議に参加して頂きながら、内部の実情を理解頂き協力関係を築くよう取り組んでいる	公民館長から災害時ボランティアに関する報告や公民館文化祭への案内をしてもらっている。地域包括センターからは桃太郎体操について説明をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、身体拘束についての内容は認識しており、玄関を開放し、自由な暮らしを支援している	身体拘束適正化検討を行い、不適切な言葉、ケア、環境について協議し、実践に努めながら穏やかに生活出来る様支援している。日中は書道、談話、アクティビティをして、和気あいあいと生活を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で年2回の研修を実施し、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で年1回研修を実施し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解は出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、あるいは改定時等は説明を十分に行い納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場にて反映している	入居契約時に意見を聴いている。「まほろば便り」を作成し、1か月の本人の状況を家族に連絡して意向を確認している。運営推進会議時に事業所の運営状況を報告し理解を図ると共に意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議での意見交換、又年2回の人事考課で提案等聞き運営に反映させている	管理者と職員は仕事を通して話し合う機会があり、意見を聴き反映させている。行事、入居者に関するケアの在り方についてグループホーム会議にて話し合い、法人全体会議に提出され検討されている。	職員はチームワークを大切にしたい対応をしている。入居者の入れ替わりに伴い、新たな対応策を皆で考案し、更なる質の向上を目指して努力されている。このまま継続されることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施、勤務表確認、給与集計等把握、年3回の面談等で意見交換(月1回会議出席)をし、職員処遇への反映、向上心を持って働けるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内の研修と経験や習熟段階に応じた法人外の研修の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会の実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らして頂く為に、不安や要望等傾聴し職員との信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望等傾聴し家族との信頼づくりの構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを見極め、徐々に馴染み安心出来る様な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ひとり一人の個性や能力の把握に努め、自分で出来る事や、やりたいと意欲を持つ事を さぐりホームでの役割づくりに生かしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、共に本人を支え、より良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚の面会や、馴染みの理・美容院を利用して、関係が途切れないようにしている	行事に家族が参加してくれるので、和やかに過ごせる様環境を整えている。法人の保育園児や近隣の保育園児の交流が頻回にあり、馴染みになっている。隣接する介護施設の入居者との交流を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士に席を設け、孤立しないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入居者の方に面会し、今までの関係を継続している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し一人ひとりの思いや、希望等の把握に努めている 困難な場合はサービス担当者会議や月1回の会議で検討している	家族や本人に直接要望を聞きとり思いを把握している。入居時に情報収集やこれまでの生活を勘案して要望として捉えている。日々の生活の中で気付いた点や能力を知り、意向に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の訪問時にコミュニケーションを図り、情報得て、これまでの生活の把握に努めている、又本人の通常の会話からも、情報の引き出しに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、及び連絡ノート・伝言板等の職員間の情報共有にて現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング状況を家族と話し合い、次回へのプランに繋げている サービス担当者会議で意見交換、家族の要望を反映、月一回の会議でモニタリングを行っている	定期的に家族に利用者の状況を伝えている。6ヶ月毎のサービス担当者会議にてプランの説明、進捗状況を確認している。担当者が毎月モニタリングをし、ケアマネジャーが定期的に確認をして見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入、月一回の会議でモニタリングを行い意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の想いに添った外出支援、地域での催し、元気の出る会(年2回)・公民会文化祭等に参加等、外出の機会を増やし地域との交流に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回の食事作り、マンドリン演奏、月に2回のダンスセラピーのボランティアを受け入れ、豊かな暮らしが出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望にて、かかりつけ医の往診が月2回ある	協力医がかかりつけ医となり、家族の希望の下、月2回の往診をしている。訪問歯科医による治療、義歯の調整をしている。月4回の訪問看護を受け入れ、健康管理と異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回の訪問看護時、情報共有をしている。状態変化や異常に気づいた場合は、訪問看護師や法人内の看護師、かかりつけ医に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談や情報交換し、病院関係者との関係づくりを行いスムーズに退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族と話し合い、方針を共有し、訪問看護師や医師に相談している	入居時に重度化と終末期の事業所での対応を話し合っている。家族が事業所での看取りを希望し、継続的医療行為が必要でなければ、終末期と看取りのケアをして終の棲家として支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の緊急時のマニュアルは提示し、職員は常に念頭に置いている 緊急時等の訓練は定期的には行っていないが、急変や事故発生時の対応は、法人内の研修で身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回法人全体の避難訓練を実施し、協力体制を築いている 事務所に避難袋を備え、警察・消防署への緊急連絡網を整備している	年2回、火災・地震想定での避難訓練をしている。避難場所は一時的に玄関先を確認している。不審者侵入の措置として、敷地入り口付近に防犯カメラ設置をしている。懐中電灯、ヘルメットを備品として備えている。	温暖化に伴う新たな災害が予想されるので、危機管理をしっかり整え、新たな災害に備えられることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートな場所での礼儀をわきまえ、居室はノックをして許可を得て入っている 自尊心を傷つけないような言葉かけや対応をしている	入居者に関して、拘束することなく尊厳あるケアが行われているか定期的に検討している。声掛けはわかり易く丁寧なものになっている。服やおやつを選んでもらう等、本人の意思を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや衣服、外食日には、メニューから好みの料理を選んでもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴、外出、昼寝に至るまで一人ひとりのペースを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の訪問美容院の日に散髪する方が多い 馴染みの理・美容院に行く方もいる 季節や本人の好みに合わせた服装で、おしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立で、皮むき等の下準備を一緒に行っている バイキングや選択食を楽しんでいる 湯のみ・箸は自分の物を使っている	農園で収穫された旬の野菜が食材として使われ、季節を感じられるよう下準備を一緒に行っている。食事作りのボランティアが月2回訪れてくれ、食事会をしている。テラスにてバイキングを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に合わせ、好みの物を選んで頂いたり、回数を増やす等して水分補給に配慮している 咀嚼機能低下の方には、小さめに刻み食べ易くしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きうがいは、本人の力に応じた支援をしている 週2回義歯は洗浄剤使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をした後は、排泄チェックシートに記入している	排泄はトイレを基本とし、歩行困難な入居者も二人介助にて体を支え、トイレにて排泄支援をしている。体操や散歩等、体を動かし、ヨーグルト・ヤクルトを摂取して体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、一人ひとりの状態に応じて散歩を行っている ヨーグルトやヤクルトを献立の中に取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をしたがらない入居者の場合は、時間をずらして別な職員が再度声かけをして、入浴を勧めている	週2日の入浴となっている。入浴時は1対1となり、会話したり、昔話を聞いたりする機会となっている。季節の楽しみ方として、5月に菖蒲湯、冬至に柚子湯をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活の中で、リハビリ活動により身体を動かし、安眠への誘導を支援している 眠れない場合は、飲み物を勧め、お話し等して落ち着いてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報を記入している 薬は職員が管理し、毎食後の薬を容器に分類し食事後に一人ひとりに名前を読み上げながら手渡し服薬確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の水やり・生け花・塗り絵・貼り絵・掃き掃除・食器洗い等役割を果たしていただけるように配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出日を設け、本人の希望に沿った外出支援をしている 利用者のその日の希望に沿い、施設内の池の回りを散歩している 家族の協力を得て、お墓参り等本人の希望に沿った支援をしている。	地域の行事に合わせて夏祭り、敬老会、振興祭りに出掛けている。池の周り等、敷地内に散歩コースを設け、気分転換を兼ねて外気浴や山野草を楽しんでもらっている。家族と一緒に、紅葉狩りや桜の花見もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけ日用品等購入出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等いつでも電話で話しが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には入居者の貼り絵や写真を貼り、窓際には季節の花を飾り、温かい雰囲気作りを工夫している	玄関、リビング、テラス等に季節ごとの花や観葉植物を植え、リビングは生け花を配置し、季節を感じてもらっている。入居者間のトラブルに配慮を示し、平穩に暮らせる様テーブル席を決めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナー・玄関口のベンチ・テーブル等の中での居心地良い場所で、一人又は気の合う同士で過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や家族の写真、使い慣れたタンスや鏡台を持ち込み、安心して過ごせるよう配慮している	居室は和室で落ち着いて暮らせる様支援している。窓からは、紅葉した木々や赤い山茶花の咲く景色が見渡せる。時計、カレンダー、仏壇、TVを配置して自分の部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印として表札等を掲げ、間違いを防ぐようにしている 入居者の行動には常に注意をして、間違った方には他の入居者に気付かれないよう、さりげなく対応している		